

ロジスティクス環境会議

第1回源流管理による環境改善委員会 議事録

1. 日 時：2004年1月22日(木) 14:00～17:00
2. 場 所：東京・港区 虎ノ門パストラル 新館5F
3. 出席者：27名
4. 議 案：
 - 1) ロジスティクス環境会議の設立経緯と概要、運営体制について
 - 2) ロジスティクス環境会議設立後の経過報告について
 - 3) 問題抽出アンケート結果について
 - 4) 正副委員長ミーティングの検討内容と委員会の議題(合意形成)としたい項目について
5. 開 会
定刻、徳田事務局長により、開会が宣された。
6. 主催者挨拶
稲束専務理事より、会議の設立経緯ならびに設立趣旨と本会議の活動の中で、各メンバー間の合意形成のもとに、サプライチェーン、更にはリバースチェーンの最適化を支えるロジスティクスの概念、方向性、役割が明確となり、今後の社会、経済活動の中で有益な指針に繋がる提言や企業活動の中で役立つツール等が成果として作成されることを期待する。また、約3年の委員会活動で成果を出すためには、継続性のある議論を行うことが必要であり、委員会の出席メンバーは可能な限り同じ方々に参加いただきたい旨の挨拶が行われた。
7. 委員紹介
小西委員長、納富副委員長、成澤副委員長の挨拶に引続き、各委員より自己紹介がなされた。
8. 議 事
小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。
 - 1) ロジスティクス環境会議の設立経緯と概要、運営体制について【資料1-1、資料1-2】
事務局より、資料1-1に基づき、ロジスティクス環境会議の設立経緯、資料1-2に基づき、ロジスティクス環境会議の概要と運営体制について説明が行われた後、確認がなされた。
 - 2) ロジスティクス環境会議設立後の経過報告について【資料2-1、資料2-2】
事務局より、資料2-1に基づき、ロジスティクス環境会議設立(2003年11月13日)後の企画運営委員会の開催および第1回企画運営委員会の議論に基づき行われた、各委員会の正副委員長ミーティングの開催経過の報告が行われた。また、資料2-2に基づき、第1期(2003年11月～2006年3月)に議題(合意形成)としたい項目と内容(例示)について説明が行われ、各委員会ならびに全メンバーが環境会議全体としての方針、アウトプ

ット(成果)、目標等について認識を共有したうえで、今後の具体的な活動を推進したい旨の説明が行われた。

3) 問題抽出アンケート結果について【資料3】

事務局より、資料3に基づき、環境会議の全メンバーに対して行われた、問題抽出アンケートの結果についての報告が行われた。

4) 源流管理による環境改善委員会の活動内容について【資料4】

資料4に関する説明を行う前に、各メンバーの「源流管理」の考え方や当委員会に対する質問、期待すること等に関して、以下のような意見交換がなされた。

「源流管理」の例示(環境会議設立準備委員会における見解)

企業の社会的責任として、商品・サービスのライフサイクル全体にわたって環境負荷を低減するため、ロジスティクスの視点から、リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の実現を目指し、製品や荷姿の設計、物流プロセスを構築すること。

【意見交換の主な内容】

- ・ 物流企業の立場から源流管理の「源流」を考えると、荷主から荷物を預かったところが源流の部分にあたるのではないか。
- ・ 荷主、物流企業であれ、各々がエンドユーザーにとってのメリットを最優先に考え、活動することが、源流管理になるのではないか。
- ・ 荷主、物流企業等の各々の立場から、前工程の負荷をいかに軽減するかを考えることが源流管理に繋がるのではないか。
- ・ 源流管理としての枠組み、想定すべき範囲を描いたうえで、まずは各企業の立場として自社・自部門における意思決定が可能な範囲に注力し、他部門・他社に関わる範囲は次のステップ(課題)とした方が良いのではないか。

以上のような意見交換の後、小西委員長より、源流管理による環境改善委員会と省資源ロジスティクス推進委員会の活動テーマや内容の棲み分けについては、企画運営委員会としては各委員会の委員長で構成される委員長ミーティングで調整し、基本的には環境会議全体として漏れの無いようにしていきたい旨の補足説明がなされた。

引続き、資料4に基づき、正副委員長ミーティングによる検討内容と委員会の活動等についての検討がなされた内容の報告がなされた後、納富副委員長、成澤副委員長より、以下のような補足説明がなされた。

納富副委員長：

今後、委員会活動が具体的になる程、当委員会と省資源ロジスティクス推進委員会間での連携が重要になる。相互の役割を明確にすることが必要である。また、当委員会の活動を進めるにあたり、メンバー各社で、環境負荷の発生源を確認したうえで、自社で出来ること、出来ないことを整理し、当委員会で取り上げるべきか、省資源ロジスティクス推進委員会で取り上げるものなのか、整理した方が良いのではないか。

成澤副委員長：

環境会議全体、当委員会を通じて各メンバーが様々な情報を共有することが、各メンバーにとって大きなメリットになるはずである。是非、当委員会を活発な意見交換を図る場としていただきたい。

引続き、資料4に基づく、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

- ・ 先ず、各社で取組むべきことを明確にする必要があるのではないか。
- ・ 製造業、流通業等の荷主企業と物流企業間でのコスト等を含めたトレードオフの課題を具体化したうえで、当委員会の荷主企業と物流企業のメンバー間で意見交換を重ねることも必要ではないか。また、このような活動が、荷主企業と物流企業の双方を会員とするJ I L Sが環境会議を開催する意義でもあるのではないか。

以上のような意見交換が行われた後、事務局より、今後の委員会活動内容等について検討を行うにあたり、当委員会の活動を通して、各メンバーが期待するアウトプットや各メンバーの現在の活動状況(源流管理の視点)等を具体的に把握するため、アンケート調査を行うことが全会一致で了承された。

また、具体的な内容については、正副委員長ミーティングにおける検討のうえ、アンケートを実施することが併せて確認された。

5) その他

今後のスケジュールについて

第2回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年2月25日(水) 13:30～15:30

会場：芝パークホテル 別館2F アイビー

9. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以 上